

平成30年度

大学院医学系研究科修士課程看護学専攻

学生募集要項

(第2次募集)

国立大学法人

滋賀医科大学

目 次

アドミッション・ポリシー等	1
-------------------------	---

学生募集要項

募集人員	2
出願資格	3
出願手続	4
社会人入学希望についての審査	5
出願資格審査	6
選抜方法等	7
合格者発表	
入学手続等	8
個人情報の取扱い	9
学内の略図	10

大学院医学系研究科修士課程看護学専攻の概要

目的	11
授業科目及び単位数表	
専攻分野	
教員の主な研究内容等	12
履修方法	
教育方法の特例	
長期履修制度	
論文作成について	13
学位授与	
別表1 授業科目及び単位数表	14
別表2 教員の主な研究内容等	16
別表3 授業科目の概要	18

アドミッション・ポリシー等

入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）

○求める学生像

1. 看護学及びその関連分野での研究者や先進的なヒューマンケアサービスを提供する専門家としての資質を有する者
2. 高い倫理観と研究意欲を有する者
3. 上記に加えて、高度専門職コースでは専攻分野における豊富な実践経験を持つ者

○入学者選抜の基本方針

1. 教育研究コースでは、①各専門分野の基礎知識と思考能力を問う「専門科目」試験、②科学的研究の遂行に必要な語学力を測る「外国語（英語）」の筆記試験、③研究意欲や倫理観等、研究者としての資質や適性を確認する「面接」を実施する。
2. 高度専門職コースでは、①各専門分野の基礎知識と思考能力を問う「専門科目」試験または「小論文」、②志望する分野での研究課題等についての基礎的知識や研究意欲等を測るための「口述試験」を課す。

教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）

1. 1専攻2コース（教育研究コース、高度専門職コース）を設け、全大学院指導教員による横断的な指導体制とする。
2. 全分野共通科目と分野別科目をおく。
 - 2-1. 看護学研究者として必要な基礎的知識と研究技術、研究倫理に関しては2コースの共通科目として教授する。
 - 2-2. 分野別科目では、各専門領域の専門的知識と研究技術を教授する。
3. 上記に加えて、コースの特徴に合わせた科目を設ける。
 - 3-1. 教育研究コースでは、様々な研究課題に応じた最先端の研究手法や国内外の知見を教授し、看護学の発展に寄与しうる課題に関する特別研究を課すことで、創造的かつ自立した研究遂行能力を養う。
 - 3-2. 高度専門職コースでは、看護理論及び看護倫理等を教授し、看護実践に直結した課題に関する特別研究及び臨地実習を課すことで、科学的エビデンスの臨床応用力を養う。

課程の修了の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）

1. 看護学やその関連分野における十分な専門的知識及び研究技術を修得している。
2. 高い倫理観を有し、研究倫理についての十分な知識を修得している。
3. これに加えて、コース毎に下記の能力や姿勢を有することを修了の要件とする。
 - 3-1. 教育研究コースでは、新たな研究課題を見だし、その解決のためのエビデンスを創出できる。
 - 3-2. 高度専門職コースでは、看護実践上重要な課題を抽出し、その解決のために最新のエビデンスを理解または自ら創出できる。

学 生 募 集 要 項

募 集 人 員

専攻名	研究領域名	コース名*	平成30年度 (第2次募集)
看護学専攻	基礎看護学研究領域	教育研究コース 高度専門職コース	11名
	臨床看護学研究領域		
	公衆衛生看護学研究領域		

* 各研究領域には、それぞれ「教育研究コース」と「高度専門職コース」が設置されています。

【コースについて】

各研究領域ごとに教育研究コースと高度専門職コースの2つのコースを設けています。出願の際にいずれかのコースを選択してください。コースにより選抜方法及び入学後の単位の履修方法が異なります。(7ページ「選抜方法等」及び12ページ「履修方法」参照)

【教育研究コース】

研究者及び教育者の養成を目的としたコースです。

【高度専門職コース】

高度で先進的看護ケアサービスを支える確かな専門知識と看護技術をもつ、優れた看護ケアの専門家の養成を目的としたコースです。

基礎看護学研究領域の高度専門職コースに基礎看護学Ⅰ「看護管理実践」を開設しています。

(※15ページ備考参照)

【長期履修制度及び出願資格について】

修士課程看護学専攻では、働きながら学びたいという意欲と能力を持った社会人のニーズに応えるため、社会人も受け入れています。なお、社会人として入学した学生に対しては、大学院設置基準第14条*に則して、昼間だけでなく夜間その他特定の時間又は時期に授業・研究指導を行うよう配慮しています。

また、学生が、職業を有している等の事情により、修業年限を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修し修了することを希望する旨を申し出たときは、その計画的な履修を認めることができる制度を設けています。(12ページ「長期履修制度」参照)

さらに、大学院への入学機会を広く提供する観点から、大学を卒業していなくとも、本学において事前に出願資格審査を受けて資格の認定を得ることを条件に、受験することができます。

* 大学院設置基準第14条

「大学院の課程においては、教育上特別の必要があると認められる場合には、夜間その他特定の時間又は時期において授業又は研究指導を行う等の適当な方法により教育を行うことができる。」

出 願 資 格

出願するには、以下の1項から10項のいずれかに該当する必要があります。

また、社会人入学を希望できる者は、以下のいずれかに該当し、出願時に既に就業している者で、入学時に3年以上の医療・保健関連業務の実務経験を有する者とします。ただし、看護師、保健師又は助産師の免許を有さずに社会人入学を希望する者には、出願に先立ち、社会人入学を認めるか否かについて審査を行います。手続きについては、5ページ「社会人入学希望についての審査」を参照してください。

なお、8項から10項のいずれかで出願を希望する場合は、出願に先立ち出願資格審査を受けて資格の認定を得なければなりません。審査を受けるための手続きについては6ページ「出願資格審査」を参照してください。

1. 大学を卒業した者及び平成30年3月までに卒業見込みの者
2. 学校教育法第104条第4項の規定により、学士の学位を授与された者及び平成30年3月までに授与される見込みの者
3. 外国において、学校教育における16年の課程を修了した者及び平成30年3月までに修了見込みの者
4. 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者及び平成30年3月までに修了見込みの者
5. 我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者
6. 専修学校の専門課程（修業年限が4年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者
7. 文部科学大臣の指定した者
8. 大学に3年以上在学した者であって、所定の単位を優秀な成績で修得したと本学大学院が認めた者
9. 外国において学校教育における15年の課程を修了した者、外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における15年の課程を修了した者、又は我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における15年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者であって、所定の単位を優秀な成績で修得したと本学大学院が認めた者
10. 本学大学院において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、平成30年3月31日において22歳に達している者

出 願 手 続

1. 出願期間

平成29年12月13日（水）～21日（木） 消印有効

2. 出願書類の提出先および照会先

〒520-2192 滋賀県大津市瀬田月輪町

滋賀医科大学 学生課入試室 入学試験係 電話 077-548-2071（直通）

3. 出願書類等

書 類 等	摘 要
1 入学志願票*1	志願票の「記入上の注意」を参照のうえ、記入してください。
2 成績証明書	出身大学（学部）長が作成し、厳封したもの。 本学卒業（見込）者は不要です。
3 卒業証明書又は 卒業見込証明書	出身大学（学部）長が作成したもの。 本学卒業（見込）者は不要です。
4 検定料納付確認書 （巻末に綴込み）*1	入学検定料 30,000 円を検定料振込用紙（本学所定の用紙・巻末に綴込み）を使用し、平成29年11月29日（水）から12月21日（木）の期間に銀行で振込んだ後、収納印を受けた「振込金受領証明書」を貼付してください。
5 受験票・写真票*1	3か月以内に撮影した写真（正面上半身、無帽、ﾀﾞｲ4cm×ｺﾞ3cm）を写真欄に貼付してください。
6 受験票送付用封筒*1	宛先を記入し、362円分の切手を貼付してください。
7 研究志望調書*1	様式に従って記入してください。
8 免許証の写し*2	看護師、保健師、助産師の免許証の写し。
9 在職期間証明書*2	実務経験を3年以上有することを、所属長が証明したもの。 （様式は自由）
10 推薦書*3	所属（施設）長が作成したもの。（様式は自由）
11 研修「修了証」の写し*3	日本看護協会が実施する認定看護管理者制度セカンドレベル教育課程の「修了証」の写し。

*1 本学所定の用紙。

*2 社会人として入学を希望する者のうち看護師、保健師、助産師の免許を有している者はこれらの書類も提出すること。

*3 高度専門職コース基礎看護学Ⅰ「看護管理実践」の出願者はこれらの書類も提出すること。

（注）1. 成績証明書について、出身大学に編入学した者については、編入学前の大学等の成績証明書も必要です。

2. 出願後における記載事項の変更は認めません。また、受理した出願書類は、理由の如何にかかわらず返還できません。

3. 出願書類に虚偽の申告をした者については、入学後であっても入学許可を取り消すことがあります。

4. 出願方法

(1) 郵送の場合

出願書類等を取りまとめ、本要項添付の所定の封筒により『書留・速達郵便』で送付してください。

(2) 持参の場合

4ページの「出願手続2の提出先」に持参してください。

受付時間は、土曜日及び日曜日を除く日の午前9時から午後5時までです。

5. 指導教員との出願前の相談（必須）

出願者の指導希望が特定の教員に集中することを避けるため、出願者は、専攻しようとする研究領域の指導を受けることを希望する教員（11・12ページ参照）と出願前（出願資格審査を受ける者は申請前）に必ず連絡をとり、修士課程において行いたい研究内容や単位取得等について、相談してください。

その場合、本学看護学科事務室（電話 077-548-2455）まで連絡するか、あるいは、メールにて教員と直接連絡をとってください。指導教員のメールアドレスは11・12ページを参照してください。

6. 留意事項

(1) 受験票は、平成30年1月9日（火）頃までに、志願者宛に発送します。1月10日（水）までに到着しない場合は、4ページの「出願手続2の照会先」まで至急連絡してください。

(2) 障害を有する者で、受験上及び修学上の配慮を必要とする場合は、出願に先立ち4ページの「出願手続2の照会先」まで申し出てください。

(3) 入学検定料返還該当者への返還手続きについて

入学検定料返還の該当者は以下のとおりです。以下に該当しない者は理由の如何を問わず返還は行いません。該当する者は、4ページの「出願手続2の照会先」へ平成30年1月22日（月）までに申し出てください。

- ① 検定料を払い込んだが出願しなかった（出願書類等を提出しなかった又は出願が受理されなかった）者
- ② 検定料を誤って二重に払い込んだ者

社会人入学希望についての審査

看護師、保健師又は助産師の免許を有せずに社会人入学を希望する場合は、専攻しようとする研究領域の指導を受けることを希望する教員（11・12ページ参照）と申請前に予め相談のうえ、次により審査を受けてください。

1. 申請書類

(1) 社会人入学審査申請書（本学所定の用紙）

(2) 関係する免許証（写し）

(3) 在職期間証明書・実務経験を3年以上有することを、所属長が証明したもの（様式は自由）

(4) 審査結果通知用封筒・長形3号封筒に住所・氏名を記載し、362円分の切手を貼付したもの

2. 申請期間

平成29年11月21日（火）～24日（金） 午後5時必着

3. 申請書類の提出先

4ページの「出願手続2の提出先」と同じです。

郵送する場合は簡易書留郵便とし、その封筒の表に「大学院修士課程社会人入学審査申請書在中」と朱書きしてください。持参する場合の受付時間は、祝日を除く日の午前9時から午後5時までです。

4. 審査

審査は、提出された申請書類により行います。

5. 審査結果

審査結果の通知は、平成29年12月8日（金）頃までに、申請者宛に発送します。

出 願 資 格 審 査

出願資格8項から10項のいずれかにより出願しようとする場合は、次により出願資格の認定を受けてください。

1. 申請書類

- (1) 出願資格認定審査申請書（本学所定の用紙）
- (2) 出願資格認定審査調書（本学所定の用紙）
- (3) 学歴に関する証明書：「卒業（修了）証明書」、「成績証明書」
- (4) 審査結果通知用封筒：長形3号封筒に住所・氏名を記載し、362円分の切手を貼付したもの

2. 申請期間

平成29年11月21日（火）～24日（金） 午後5時必着

3. 申請書類の提出先

4ページの「出願手続2の提出先」と同じです。

郵送する場合は簡易書留郵便とし、その封筒の表に「大学院修士課程出願資格認定審査申請書在中」と朱書きしてください。持参する場合の受付時間は、祝日を除く日の午前9時から午後5時までです。

4. 資格審査

資格審査は、提出された申請書類により行います。

5. 審査結果

審査結果の通知は、平成29年12月8日（金）頃までに、申請者宛に発送します。

出願資格「有」と認められた者は、本要項に定める出願手続（4ページ参照）を行ってください。

ただし、出願書類のうち「成績証明書」と「卒業（修了）証明書」は出願資格審査の申請時に提出済みですので必要ありません。

選 抜 方 法 等

1. 選抜方法

学力検査、面接・口述試験及び出願書類を総合して選抜します。

なお、社会人入学希望者に対して別途社会人特別選抜は行いません。本試験にて選抜します。

2. 学力検査等の日時

月日	時 間	学力検査等	コース名及び配点	
			教育研究	高度専門職
1 月 16 日 (火)	9:30 ~ 10:30	外国語(英語)	50点	
	11:00 ~ 12:00	専門科目	100点	100点*1
	13:00 ~	面接 (個人面接形式)	*2	
		口述試験		50点*3

*1: 基礎看護学 I 「看護管理実践」の志願者には、看護管理実践に関する問題を出題する。

*2: 面接は、優れた看護ケアの専門家、教育者及び研究者となるにふさわしい資質や適性の観点から評価し、その結果は総合判定に加味する。

*3: 口述試験は、志望する研究テーマ等について試問する。

(備考) 1. 「外国語(英語)」には、辞書又は電子辞書の持ち込みを可とします。

2. 学力検査に使用できるのは、黒鉛筆(シャープペンシル可)、鉛筆削り(電動式を除く)、消しゴム、メガネ、時計(計時機能のみ)に限ります。

3. 学力検査の場所

滋賀医科大学(10ページの「学内の略図」を参照してください。)

詳細については、受験票送付時に通知します。

合 格 者 発 表

平成30年2月8日(木) 午前10時(予定)

入学試験掲示場(10ページ「学内の略図」参照)及びインターネットホームページ

(<http://www.shiga-med.ac.jp/>)において合格者の受験番号を発表し、合格者には「合格通知書」を送付します。

なお、電話による問い合わせには一切お答えできません。

入 学 手 続 等

1. 日 時

・ 持参の場合

平成30年3月8日（木） 午前9時から午後5時まで

ただし、やむを得ない事情により上記指定日に手続ができない場合は、下記2へ上記時間内に連絡のうえ、3月9日（金）の午前9時から午後5時までの間に手続を行ってください。

・ 郵送の場合

平成30年3月9日（金） 午後5時必着

郵送の場合は、3月8日（木）午後5時までに下記2へ連絡してください。

2. 場所及び郵送の宛先

〒520-2192 滋賀県大津市瀬田月輪町

滋賀医科大学 学生課入試室 入学試験係 電話 077-548-2071（直通）

3. 納付金

(1) 入学料 282,000円

(2) 授業料 未定（参考：平成29年度 267,900円（前期分）〔年額535,800円〕）

（備考）① 未定としている授業料の額及び納付の詳細については、合格者に別途通知します。

② 前期分の授業料は、本学所定の振込依頼書により平成30年4月中に納付していただくこととなります。

③ 授業料については、年額を納付することができます。

④ 授業料が在学中に改定された場合は、改定時から新しい授業料を適用します。

4. 納付金の免除等

入学料及び授業料には免除及び徴収猶予の制度があり、これに関する手続等については、合格者に別途通知します。

5. その他の必要経費

学生教育研究災害傷害保険料、研究・実習のための経費等が必要となります。

6. 提出書類等

入学手続に必要な書類やその他詳細については、合格通知書を送付する際にお知らせします。

なお、社会人として、病院等に在職したまま就学しようとする者は、所属長の「就学承諾書」の提出が必要となります。

7. 留意事項

(1) 入学手続には、受験票が必要ですので、紛失しないように注意してください。

(2) 上記の期限までに入学手続を完了しない場合は、入学辞退者として取り扱います。

個人情報 の 取 扱 い

本学が入学者選抜を通じて取得した個人情報については、次のとおり取り扱いますので、予めご了承ください。

1. 個人情報については、「独立行政法人等の保有する個人情報の保護に関する法律」及び「国立大学法人滋賀医科大学の保有する個人情報の適切な管理のための措置に関する規程」に基づいて取り扱います。
2. 出願書類等に記載された氏名、住所その他の個人情報については、①入学者選抜（出願処理、選抜実施）、②合格発表、③入学手続業務を行うために利用します。
3. 入学者選抜に用いた試験成績は、今後の入学者選抜方法の検討資料作成のために利用します。
4. 出願書類等に記載された個人情報は、入学者のみ①教務関係（学籍、修学指導等）、②学生支援関係（健康管理、就職支援、授業料免除・奨学金申請等）、③授業料徴収に関する業務を行うために利用します。

学内の略図



- ① 一般教養棟
- ② 基礎研究棟
- ③ 基礎講義実習棟
- ④ 福利棟
- ⑤ 臨床研究棟
- ⑥ 臨床講義棟
- ⑦ 管理棟・保健管理センター
- ⑧ 図書館・マルチメディアセンター
- ⑨ 看護学科棟

交通機関



●JR東海道本線(琵琶湖線)瀬田駅前から「滋賀医大」行き路線バス「医大西門前」下車(所要時間約15分)

大学院医学系研究科修士課程 看護学専攻の概要

目的

修士課程看護学専攻は、21世紀社会の健康問題に関する多様な要請に適切に応えるために、本学が蓄積してきた研究や診療・看護の成果や医学部看護学科ならびに附属病院と関連施設の教育研究資源を活用して、高度な、先進的看護ケアサービスを支える確かな専門知識と看護技術をもつ優れた看護ケアの専門家と教育者ならびに研究者を育成することを目的としています。

授業科目及び単位数表

別表1のとおり。

専攻分野

修士課程看護学専攻には3つの研究領域があります。それぞれの研究領域には以下に示すように専攻する研究分野に則した研究部門があります。

1. 基礎看護学研究領域：

基礎看護学Ⅰ研究部門	(指導教員 本田 可奈子	iy7k@belle.shiga-med.ac.jp)
	(指導教員 中西 京子	naka320@belle.shiga-med.ac.jp)
基礎看護学Ⅱ研究部門	(指導教員 相見 良成	aimi@belle.shiga-med.ac.jp)
基礎看護学Ⅲ研究部門	(指導教員 佐々木 雅也	sasaki@belle.shiga-med.ac.jp)

基礎看護学研究領域は、看護が対象とする人間を包括的にとらえ研究することによって、あらゆる看護実践に共通する基礎理論を見出し、看護の科学性を追求することを目指した領域です。「基礎看護学Ⅰ」は、看護科学を基盤においた看護教育、看護技術を研究することに適しています。また、高度な実践能力の修得を目的とした高度専門職コースには「看護管理実践」(※15ページ備考参照)を設けています。「基礎看護学Ⅱ」は、形態機能学を基礎として研究することに適しています。また「基礎看護学Ⅲ」は、臨床栄養学およびその関連領域について研究することに適しています。

2. 臨床看護学研究領域：

成人看護学Ⅰ研究部門	(指導教員 遠藤 善裕	yendo@belle.shiga-med.ac.jp)
成人看護学Ⅱ研究部門	(指導教員 宮松 直美	miyan@belle.shiga-med.ac.jp)
高齢者看護学研究部門	(指導教員 荻田 美穂子	tan3434@belle.shiga-med.ac.jp)
小児看護学研究部門	(指導教員 桑田 弘美	kuwata@belle.shiga-med.ac.jp)
母性看護学研究部門	(指導教員 立岡 弓子	ytateoka@belle.shiga-med.ac.jp)
	(指導教員 喜多 伸幸	nkita@belle.shiga-med.ac.jp)
	(指導教員 土川 祥	pom1121@belle.shiga-med.ac.jp)
精神看護学研究部門	(指導教員 河村 奈美子	namy@belle.shiga-med.ac.jp)

臨床看護学研究領域は、高度な看護実践の場で用いられる看護介入を体系的に研究することを目指した領域です。成人看護学、高齢者看護学、小児看護学、母性看護学、精神看護学等の各分野の研究に適しています。

3. 公衆衛生看護学研究領域：

公衆衛生看護学研究部門（指導教員 伊藤 美樹子 itmkk@belle.shiga-med.ac.jp）
（指導教員 坂東 春美 hbando@belle.shiga-med.ac.jp）
（指導教員 興水 めぐみ meg54310@belle.shiga-med.ac.jp）
地域看護学研究部門（指導教員 未定）

公衆衛生看護学研究領域は、すべての人々にとっての健康、安心や安全を整えること、健康格差の縮小、超高齢社会における地域包括ケア、健康的なコミュニティづくりなど、保健医療サービスのあり方や質の向上に寄与する知見や実践を探求する領域です。公衆衛生看護学、在宅看護学の分野の研究に適しています。

教員の主な研究内容等

別表2のとおり。

履修方法

修士課程看護学専攻を修了するためには単位の修得が必要です。単位取得には、**教育研究コースと高度専門職コース**の2つのコースを設けています。

また、各自の研究テーマに合わせて、研究領域を越えて、授業科目を自由に選択して履修することができます。ただし、開講科目は年度によって変更される場合があります。

教育研究コース：全領域の必修科目6単位、選択必修科目2単位、当該研究領域の必修科目4単位、全領域の選択必修科目、選択科目並びに他の研究領域の選択科目から8単位以上、看護学特別研究10単位の合計30単位以上を履修します。

高度専門職コース：全領域の必修科目10単位、当該研究領域の必修科目4単位、全領域の選択科目から6単位以上、指導教員の指定する看護学実習6単位及び看護学特別研究4単位の合計30単位以上を履修します。

授業科目の講義内容については、別表3を参照してください。

教育方法の特例

修士課程看護学専攻においては大学院設置基準第14条「教育方法の特例」（2ページ参照）を適用し、有職者が離職することなく修学し、教育・研究指導を受けることが可能になるよう、昼間だけでなく夜間その他特定の時間又は時期に講義・研究指導を行うよう配慮しています。

長期履修制度

修士課程看護学専攻では、職業を有している等の事情によって、標準修業年限（2年）を超えて一定の期間（3年）にわたり計画的に教育課程を履修し、修了することを願い出た者については、審査のうえ、これを許可する制度を設けています。この制度の適用者の授業料総支払額は、標準修業年限による修了者と同額になります。この制度の適用を希望する場合は、合格発表後、入学手続案内で定める期間に申し出てください。

論文作成について

修士論文の作成過程で中間発表の場を設け、専攻の領域を越えてきめこまかな指導が受けられるようにしています。

学位授与

1. 学位の種類は、修士（看護学）とします。
2. 学位は、大学院に2年以上在学し、上記履修方法により30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けたうえ、修士論文の審査および最終試験に合格した者に授与します。

なお、高度専門職コースを選択した者に限り、当該修士課程の目的に応じ適当と認められるときは、特定の課題についての研究の成果をもって修士論文の審査に代えることができます。

また、本学大学院委員会が優れた業績を上げたと認める者については、1年以上の在学期間をもって学位を授与することがあります。

授 業 科 目 及 び 単 位 数 表

研究領域	授 業 科 目	授業を行 う年次	単 位 数			選 択 ・ 必 修	
			講 義	演 習	実 習	教育研究 コース	高度専門 職コース
全 領 域	看護学研究方法論Ⅰ	1～2	2			必 修	必 修
	看護学研究方法論Ⅱ	1～2	2			選 択 必 修	選 択
	看護学研究方法論Ⅲ	1～2	2			選 択 必 修	選 択
	看護学研究方法論Ⅳ	1～2	2			必 修	選 択
	看護学研究方法論Ⅴ	1～2		2		必 修	—
	看護理論	1～2	2			選 択	必 修
	看護倫理	1～2	2			選 択	必 修
	コンサルテーション論	1～2	2			選 択	必 修
	看護政策論	1～2	2			選 択	選 択
	看護教育論	1～2	2			選 択	選 択
	看護管理論	1～2	2			選 択	必 修
	臨床診断学	1～2	2			選 択	選 択
	臨床解剖生理学	1～2	2			選 択	選 択
	臨床薬理学	1～2	2			選 択	選 択
	基 礎 看 護 学	○ 基礎看護学Ⅰ特論	1～2	2			}
基礎看護学Ⅰ演習A		1～2		1			
基礎看護学Ⅰ演習B		1～2		1			
○ 基礎看護学Ⅱ特論		1～2	2			}	必 修
基礎看護学Ⅱ演習A		1～2		1			
基礎看護学Ⅱ演習B		1～2		1			
○ 基礎看護学Ⅲ特論		1～2	2			}	必 修
基礎看護学Ⅲ演習A		1～2		1			
基礎看護学Ⅲ演習B		1～2		1			
臨 床 看 護 学	○ 成人看護学Ⅰ特論	1～2	2			}	必 修
	成人看護学Ⅰ演習A	1～2		1			
	成人看護学Ⅰ演習B	1～2		1			
	○ 成人看護学Ⅱ特論	1～2	2			}	必 修
	成人看護学Ⅱ演習A	1～2		1			
	成人看護学Ⅱ演習B	1～2		1			
	○ 高齢者看護学特論	1～2	2			}	必 修
	高齢者看護学演習Ⅰ	1～2		1			
	高齢者看護学演習Ⅱ	1～2		1			
	○ 小児看護学特論	1～2	2			}	必 修
	小児看護学演習Ⅰ	1～2		1			
	小児看護学演習Ⅱ	1～2		1			

研究領域	授 業 科 目	授業を行 う年次	単 位 数			選 択 ・ 必 修	
			講 義	演 習	実 習	教育研究 コース	高度専門 職コース
臨床看護学	○ 母性看護学特論	1～2	2			}	必 修
	母性看護学演習Ⅰ	1～2		1			
	母性看護学演習Ⅱ	1～2		1			
	○ 精神看護学特論	1～2	2			}	必 修
	精神看護学演習Ⅰ	1～2		1			
	精神看護学演習Ⅱ	1～2		1			
公衆衛生看護学	○ 公衆衛生看護学特論	1～2	2			}	必 修
	公衆衛生看護学演習Ⅰ	1～2		1			
	公衆衛生看護学演習Ⅱ	1～2		1			
	○ 地域看護学特論	1～2	2			}	必 修
	地域看護学演習Ⅰ	1～2		1			
	地域看護学演習Ⅱ	1～2		1			
看護学特別研究 - 教育研究コース		1～2	1 0				必 修
看護学実習 - 高度専門職コース						}	必 修
基礎看護学Ⅰ 看護管理実践 ※		1～2	6				
基礎看護学Ⅱ		1～2	6				
高齢者看護学		1～2	6				
精神看護学		1～2	6				
小児看護学		1～2	6				
母性看護学		1～2	6				
成人看護学Ⅰ		1～2	6				
成人看護学Ⅱ		1～2	6				
公衆衛生看護学		1～2	6				
地域看護学		1～2	6				
看護学特別研究 - 高度専門職コース						}	必 修
基礎看護学Ⅰ 看護管理実践 ※		1～2	4				
基礎看護学Ⅱ		1～2	4				
高齢者看護学		1～2	4				
精神看護学		1～2	4				
小児看護学		1～2	4				
母性看護学		1～2	4				
成人看護学Ⅰ		1～2	4				
成人看護学Ⅱ		1～2	4				
公衆衛生看護学		1～2	4				
地域看護学		1～2	4				

(備 考) ○は教育研究コースの他研究領域の学生には、選択科目を示す。

※ 基礎看護学Ⅰ「看護管理実践」は、医療・看護の動向を踏まえ、実践の場と連動させた看護管理に必要な能力開発を支援するプログラムです。高度な看護管理実践力と教育・研究力を併せ持つ看護管理者の育成を目指しています。そのため、臨床において看護管理を実践している社会人を若干名受け入れます。

なお、出願資格については、3ページに記載の「出願資格」のほか、日本看護協会が実施する認定看護管理者制度セカンドレベル教育課程を修了していることが加わります。

別表 2

教 員 の 主 な 研 究 内 容 等

(平成 29 年 10 月 1 日現在)

研究領域	部門名	職名	氏 名	主な研究内容
基礎看護学	基礎看護学Ⅰ	准教授	本 田 可奈子	1. 基礎看護技術教育に関する研究 2. 看護師の現任教育に関する研究 3. 救急看護領域における職場環境に関する研究 4. 看護師のキャリア支援に関する研究
		准教授	中 西 京 子	1. 看護管理に関する研究 2. 看護職のキャリア形成に関する研究 3. 基礎看護技術教育に関する研究 4. 看護職の労働環境に関する研究
	基礎看護学Ⅱ	教授	相 見 良 成	1. 解剖生理学の教育に関する研究 2. 看護領域の英語の教育・学習法の開発
	基礎看護学Ⅲ	教授	佐々木 雅 也	1. 各種疾患の栄養状態とアウトカムに関する臨床研究 2. エネルギー代謝に関する臨床研究 3. 炎症性腸疾患に関する研究 4. 経腸栄養に関する臨床研究 5. チーム医療のアウトカム評価
臨床看護学	成人看護学Ⅰ	教授	遠 藤 善 裕	1. がん、主に消化器がん、ならびに炎症性腸疾患に関する研究 2. 骨盤底の構造と機能（尿失禁・便失禁）に関する研究 3. 緩和医療に関する研究 4. アフェレシスに関する研究
	成人看護学Ⅱ	教授	宮 松 直 美	1. 成人期の健康障害と生活環境要因との関連についての疫学研究 2. 循環器疾患の発症および再発予防に関する研究 3. 非感染性疾患（NCD）の予防と管理のための啓発および健康教育、療養指導の効果検証
	高齢者看護学	准教授	荻 田 美穂子	1. 高齢者のフレイル・要介護予防に関する疫学研究 2. 高齢者の在宅療養移行支援に関する研究（心不全患者など） 3. 脳神経疾患患者の歩行障害・転倒に関する研究
	小児看護学	教授	桑 田 弘 美	1. 難病（特に希少難病）や障害をもつ子どもの在宅ケアへの支援に関する研究 2. 子どもの健康の保持、増進する親の育児に関する研究 3. 難病や障害をもつ子どもの学校教育に関する研究

研究領域	部門名	職名	氏名	主な研究内容
臨床看護学	母性看護学	教授	立岡弓子	<ol style="list-style-type: none"> 1. 断乳ケアのエビデンス 2. 授乳ケア用品の実装開発に関する研究 3. 乳頭トラブル予防にむけたケア用品の開発 4. 分娩予測指標の開発
		教授	喜多伸幸	<ol style="list-style-type: none"> 1. 産科危機的出血の診断・治療（産科DICを含む） 2. アイ・トラッキング法を用いた新しい医学技術の伝承方法の開発
		講師	土川祥	<ol style="list-style-type: none"> 1. 妊娠期のメンタルヘルスについての研究 2. 周産期医療における代替医療の効果の検証
	精神看護学	教授	河村奈美子	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもから高齢者までの精神的健康に関する研究 2. 精神看護学教育に関する研究 3. 看護師の専門的なコミュニケーション技術の発展に関する研究
公衆衛生看護学	公衆衛生看護学	教授	伊藤美樹子	<ol style="list-style-type: none"> 1. 要介護高齢者と介護家族の共生に関する研究 2. 慢性疾患患者（児）の長期生活予後、有効なライフスキルに関する研究 3. 地域包括ケアシステムに関する研究
		講師	坂東春美	<ol style="list-style-type: none"> 1. 禁煙・再喫煙防止支援の開発 2. 受動喫煙防止に関する研究 3. 公衆衛生看護に関する研究
		講師	興水めぐみ	<ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅療養者とその家族に関する研究 2. 訪問看護師のキャリア形成に関する研究 3. 新卒訪問看護師の支援に関する研究
	地域看護学			未定

授 業 科 目 の 概 要

別表 3

研究領域	授 業 科 目	概 要
全 領 域	看護学研究方法論Ⅰ	看護研究の基本原則と研究に必要な文献検索スキルを習得し、修士論文の基本的構想を組み立てる基本的な能力を養う。
	看護学研究方法論Ⅱ	質的研究では、研究者自身が研究の道具である。実際にデータ収集や分析を行い、質的研究方法の手法の一つを身につける。
	看護学研究方法論Ⅲ	疫学の基本的な考え方と研究方法、および必要な統計手法について学び、エビデンス構築のための看護学研究遂行に必要な知識・技術を身につける。
	看護学研究方法論Ⅳ	看護研究における系統的レビューについて学習し、科学的根拠に基づいた看護研究の必要性と看護ケア全体のボトムアップを目指した研究手法について学習する。
	看護学研究方法論Ⅴ	エビデンス構築のために必要とされる研究手法および研究成果のまとめ方を学習する。
	看護理論	1) 看護学・看護学研究における理論・概念の開発についてその意義を踏まえ、既存の理論・概念の分析を試みる。 2) 自らの関心領域や看護実践を諸理論を用いて探究する。
	看護倫理	生命倫理学を中心とした倫理学の理論的概要を学び、看護職としての倫理の意味を探求する。また医療現場における倫理的問題を提示し、解決方法を検討する。
	看護教育論	1) 看護教育の歴史的変遷、2) 看護教育制度、3) 看護学教育課程について、諸外国との比較により、我国の特徴を考察する。 4) 看護継続教育について、我国の実情を検討する。
	看護管理論	保健医療福祉論、組織論、経営管理論等を基盤に、看護管理に必要な幅広い知識体系を通して、革新的かつ創造的な看護管理者や看護管理研究者の育成を目指す。
	看護政策論	わが国におけるこれまでの看護行政を、1) 看護に関する重要な政策は、当時の福祉・医療政策のなかになどどのように位置づけられよいか、またどのような社会的背景を持っていたのか、2) その政策決定過程にはどのような agent たちがどのように関わっているのか、という二つの視点から考察する。
	コンサルテーション論	看護師の重要な役割であるコンサルテーションに関して、関連する理論や技術を学ぶことにより専門的な役割発展のための基礎的能力を修得する。看護職が職務を遂行する過程で直面する、複雑で対応困難な問題を抱える患者・家族の問題を解決していく上で、医療チームの中での看護の立場から、相談の理論と技術を使って支援する能力を培う。
	臨床診断学	ストーマケア、創傷ケア、失禁ケアをはじめ、医療の各分野では、看護職員の積極的な介入のニーズが多く、エキスパートとしての活躍が期待されている。そのために、病態の理解をさらに深め、フィジカルアセスメントより進んだフィジカルイクザミネーションを含む臨床診断学について学ぶ。

研究領域	授業科目	概要
全領域	臨床解剖生理学	形態学・生理学の正しい知識に基づいて、生体レベルでの正常と異常、病態や疾病を学習し、理解することにより、臨床における看護実践への基礎的能力を養うことを目指す。
	臨床薬理学	看護の実践において必要と考えられる薬理学の知識につき学習し、高度のケアの実践に活かす能力を獲得することを目的とする。大きく内科領域と外科領域に分け、体系的な知識の獲得に役立てたい。
基礎看護学	基礎看護学Ⅰ特論	基礎看護学領域のテーマ（技術・教育・看護管理）の基礎となる理論を概観し、看護技術と看護教育の発展過程について理解し、この領域における課題を明確にする。
	基礎看護学Ⅰ演習A	基礎看護領域に関連する研究論文のクリティークを中心に、看護技術・教育と看護管理の現状と課題を明かにし自己の課題を明確にする。
	基礎看護学Ⅰ演習B	基礎看護学Ⅰ特論に基づき、基礎看護学領域における国内外の研究を概観し、看護管理及び看護実践上の課題を明らかにし、その解決のための方略を検討する。
	基礎看護学Ⅱ特論	上級看護を実践するために、組織化学法や機能解剖学を学習し、それを通じて人体の構造と生理機能について理解し看護実践に役立てる。
	基礎看護学Ⅱ演習A	実際の組織・臓器標本や解剖体に触れることで、看護のフィジカルアセスメントに必要な、生体の構造と生理機能についてより深く理解する
	基礎看護学Ⅱ演習B	生体の構造と生理機能に対する科学的、客観的アセスメントを身につけ、上級看護の実践のために活用することを目指す。
	基礎看護学Ⅲ特論	看護師として栄養管理に関わるために必要な臨床栄養学を学び、栄養代謝病態の基本と栄養管理の実践法を理解する。
	基礎看護学Ⅲ演習A	高精度体組成分析装置や間接熱量計を用いた栄養評価など、様々な栄養指標を用いた栄養アセスメントを行い、その意義について理解する。
	基礎看護学Ⅲ演習B	基礎看護学Ⅲ特論と基礎看護学Ⅲ演習Aにおける学習から研究課題を見出し、基礎看護学Ⅲ領域の様々な研究手法について検討し、上級看護の実践に活用する。

研究領域	授業科目	概要
臨床看護学	成人看護学Ⅰ特論	がん看護を研究・実践するにあたり、基礎となる、がんの疫学、がんの発生、病態生理、診断、治療などに関する最新の知識習得を目指す。
	成人看護学Ⅰ演習A	がん看護をはじめ成人看護をすすめるにあたり、臨床実践ならびに看護研究における、最新の手法を習得する。
	成人看護学Ⅰ演習B	国内外の文献検討を含め、成人看護における各自の興味ある分野での、具体的かつ研究的視点から検討をすすめる。
	成人看護学Ⅱ特論	非感染性疾患(NCD)の予防と管理に関する国内外の最新の知見から、各領域での臨床課題および研究課題を見出す。
	成人看護学Ⅱ演習A	非感染性疾患(NCD)の予防と管理における看護職の役割の現状と方向性に関しての自己の考え方を明確にする。
	成人看護学Ⅱ演習B	慢性疾患と共に生活する人への質の高いケアを提供するため、看護実践の分析と評価のあり方を検討し、支援システムのあり方を探求する。
	高齢者看護学特論	高齢化の国際的動向や我が国の保健福祉政策の動向を理解し、高齢者分野における臨床課題および研究課題を見出す。
	高齢者看護学演習Ⅰ	高齢者が陥りやすい健康障害(フレイル・歩行障害・転倒・嚥下障害・排泄障害・認知障害等)に関する国内外の文献レビューを通して、在宅・病院・施設における高齢者看護のあり様を探求する。
	高齢者看護学演習Ⅱ	高齢者の健康寿命の延命を目的としたケアを提供するため、高齢者の健康と生活を評価するために重要と思われる主要概念と理論、評価尺度を学び、高齢者の特性に応じた効果的な実践と研究のあり方を探求する。
	小児看護学特論	様々な状況にある子どもと家族について学び、子どもと親を多角的に理解・アセスメントするための基盤を作る。
	小児看護学演習Ⅰ	発達理論、セルフケア理論を中核に、子どもと親が内包する健康問題に対して理論を活用したケアの実際とその評価について探究する。
	小児看護学演習Ⅱ	難病あるいは障害をもつ子どもと家族が抱える問題と在宅ケアにおける看護上の課題について演習を通して学び考察する。
	母性看護学特論	ライフサイクル理論からヒトの身体発達・精神発達を包括的にアセスメントし、性差医療からみた女性の健康にむけた看護実践について考察する。
	母性看護学演習Ⅰ	ウイメンズヘルスとそれを取りまく健康課題について、これまで取り組まれてきた研究成果について探究する。
母性看護学演習Ⅱ	国外のリプロダクティブヘルス・ライツに関するトピックの学習を通して、グローバルな視点から女性の性や生殖に関する健康や権利に与える諸要因を考察する。	

研究領域	授業科目	概要
臨床看護学	精神看護学特論	あらゆる世代の心の健康に関する問題について社会心理的側面から理解し、エビデンスに基づいた専門的な介入を実践するための基盤となる理論や概念、モデルの基本的知識を修得する。また対象者の心理社会的理論を活用してアセスメントし、看護援助方法について検討することや看護実践を深く振り返ることにより精神看護の専門的な知識・技術を修得する。
	精神看護学演習Ⅰ	精神科治療に必要とされる専門的な治療技法や看護介入方法、さらに精神科治療における身体療法や精神療法、心理社会的療法の内容と適用について理解を深めるとともに、対象者との治療的関係の確立に向けた看護の役割を検討し必要な知識・技術を習得する。
	精神看護学演習Ⅱ	心の健康をあつかう複雑なケースに対する看護について、多職種連携、ケースマネジメントやコンサルテーションの視点を含め多角的に分析・検討し、専門性の高い看護実践について探求する。
公衆衛生看護学	公衆衛生看護学特論	地域特性やヘルスニーズをふまえた保健医療サービスや地域包括ケアのあり方について、事例分析を行い、効率性や資源配分、システムについての洞察を深める。
	公衆衛生看護学演習Ⅰ	地域で生活する多様な健康レベルにある個人や家族に対して、QOLの向上とそれらを支えるための看護に焦点を絞って系統的に文献検討を行い、看護研究および看護実践への適用とそのあり方を探究する。
	公衆衛生看護学演習Ⅱ	保健統計関連資料を活用し、地域の保健医療福祉システムを理解するとともに、地域住民の顕在・潜在する健康課題について明らかにするための方法を深める。
	地域看護学特論	地域看護（在宅看護を含む）とヘルスプロモーションの概念及び歴史的経緯、対象課題（グローバルな課題：環境問題や感染症対策、人口問題：少子高齢化と保健医療福祉など）の問題の提起と討議を行い、英語論文を輪読し研究対象としての取り組み方などを考究する。
	地域看護学演習Ⅰ	保健医療福祉の政策について国内外の文献や資料をレビューし、健康政策の策定過程や思考過程を探求する。
	地域看護学演習Ⅱ	ノーマライゼーションやICF、権利擁護の視点から、地域ケアシステムの現状と課題について考察・検討する。住民と専門看護職、他職種、NPO等がパートナーシップで築く地域包括ケアシステムのあり方を展望する。
看護学特別研究	課題にそって、研究をデザインし、研究を進める。デザイン発表、中間発表を行い、必要に応じて研究デザインを見直し、研究の成果を修士論文にまとめる。	
看護学実習	専門領域の課題にそって看護学の専門実習を行う。	

検定料振込用紙等

- ※1 下切り取り以下の用紙により、平成29年11月29日(水)から12月21日(木)の期間に振り込んでください。
- 2 右の台紙に「振込金受領証明書」を貼り付けたものを関係書類と共に送付してください。

検定料納付確認書

この枠内に振り込み後の「振込金受領証明書」を貼り付けてください。

C 振込金受領証明書 (大学提出用)

金額	¥30,000-
受取人	滋賀医科大学 (フリガナ) 志願者氏名

取扱銀行収納印

1

A 振込金(兼手数料)受領書 (本人保存)

依頼日	年 月 日
金額	¥30,000-
先方銀行	滋賀銀行・瀬田駅前支店
	関西アーバン銀行・草津南支店
	三菱東京UFJ銀行・草津支店
受取人	滋賀医科大学 志願者氏名(フリガナ)
消費税込手数料	円

上記の金額正に受取りました。

取扱銀行収納印

銀行

支店

2

印紙

B 電信扱 振込依頼書 (取扱店保存)

○右記取りまとも銀行のうち一つを選び、印を付し必ず電信送金してください。	依頼日	年 月 日	振込指定	科目	手数料ご依頼人負担				
	先方銀行		預金種目	口座番号					
	滋賀銀行・瀬田駅前支店		普通	0146970	金額	¥30,000-			
	関西アーバン銀行・草津南支店		普通	0514443	内訳	現金			
三菱東京UFJ銀行・草津支店		普通	1102147	当手枚					
受取人	シカ・イカタ・イカ・ク				10,000	0	000	100	00
滋賀医科大学					5,000		000	50	0
志願者氏名(フリガナ): もれのないよう打電してください。					2,000		000	10	0
ご依頼人	氏名(漢字)				1,000		000	合計	
	住所〒				500		00	つり銭	
TEL					取扱銀行収納印				

◎取扱銀行へのお願い

- ①太線内を必ず打電してください。
- ②金額の訂正はできません。
- ③収納印は1・2・3にもれなく正確に押印し、A・C票は必ず依頼人にお返しください。
- ④滋賀銀行以外の銀行・信用金庫から振り込まれる場合は手数料が必要です。
- ⑤本振込依頼書は、平成29年12月22日以降は取り扱わないで下さい。

3



入学者選抜等に関する照会先

滋賀医科大学 学生課入試室入学試験係

〒520-2192 滋賀県大津市瀬田月輪町

TEL 077-548-2071

E-mail hqnyushi@belle.shiga-med.ac.jp

<http://www.shiga-med.ac.jp/>